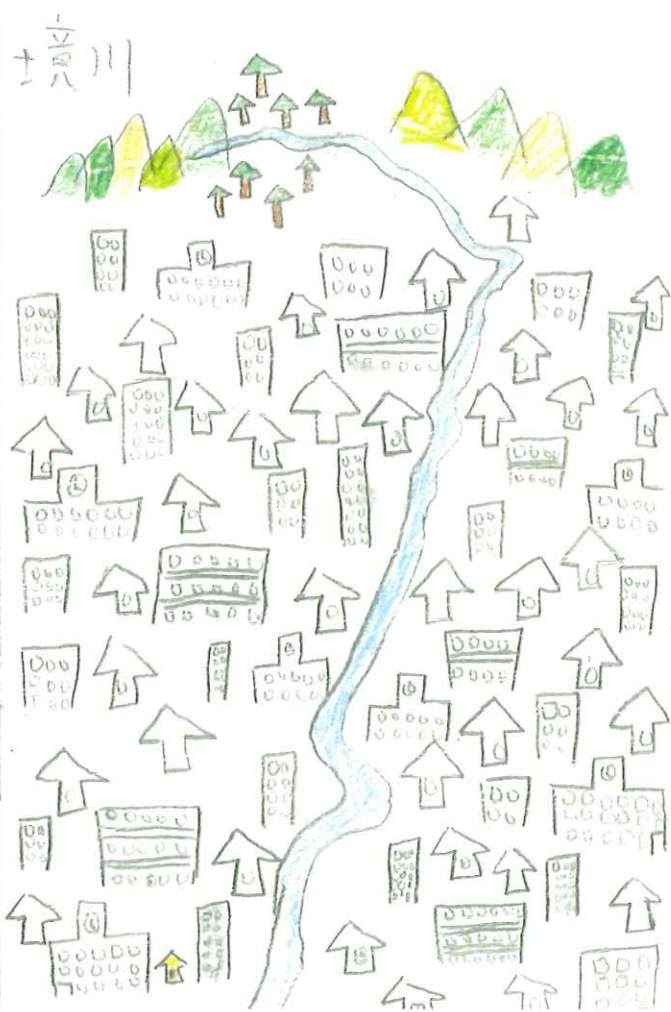
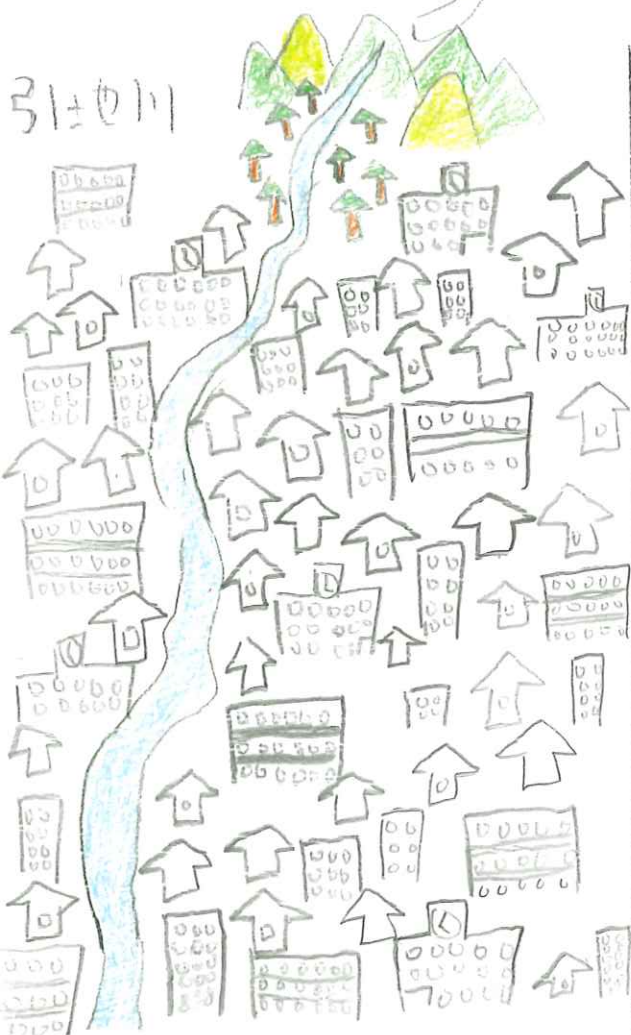


2つの川の 生きもの くらべ2



この研究を始めることにした きっかけ

ぼくは、前回の自由研究で、境川と引越川の
中流にどんな生き物が生息しているかを調べました。
境川ではサリガニ、ハゼ、オイカワ、ヌマエビが
とれ、引越川ではヌマエビがとれました。

ぼくは、その結果を見て、境川と引越川の源流・
上流・中流のちがいを調べることにしました。

その方法として、①クラスの人みんなに、川で見た
生き物アンケートをとる②源流、上流、中流の
まわりの様子や、川はばなどの確認③各場
所でのPHチェック④川に実際にいって見て
みたり、人に聞いたり、トラップをしかける

前回の自由研究ではわからなかった事をわかるよう

にしたいと思い、この研究を始めることにしました。

土境川

土境川源流

(トナリノ
しがけな(1))

位置 河口から直線

きりで約35km

まわり 草(有) 木(有)

シダ(多) まわりは石

石少防ダムがある

流れ まわりの石から

しみだすような流れ

関東ローランド
黒い ↓

土石少さいが(1)
↓ 土石方せく
る少防ダム

ゴガム (無)

ツルハツグサ
丸葉 山
ゲはえてる



土境川上流① (トナリノ
しがけ)

川幅は

約210cm

まわり 草(有) 木(有)

ゴガム(有)

りの木(多)



流れ

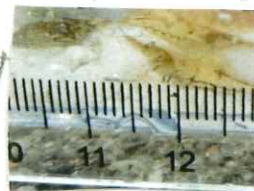
ゆるやか

とれた生き物

ボジョウ 8cm

ミナミマエビ 6びき 1~2cm

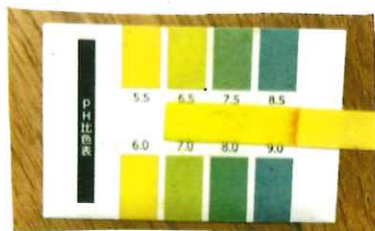
パテのしかけ
の中に入れて
いた。



PH・水質

弱酸性

PH...6.5



境川上流② トラフ (しかけ)

位置 河口から直線

きりで約 30 km

生あり 草(有) 木(無)

ゴケ(有)

アメンボがたくさん

川はば

約 375 cm

川底には
なやどろが

たまっていた

近くには瀬

もあり上から

モ魚影が見え

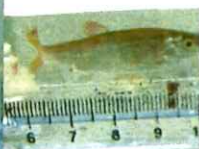
た。



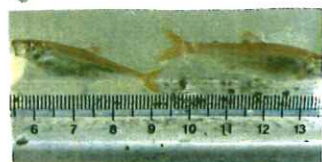
とれた生き物

トラフバヤシ 4.5 cm

ミナミダカ (金魚で飼育して、
わがやだかたのでとてちゅうがにている
ミナミダカのへんいしします。



ミナミダカ(?)
トラフバヤシ



境川 中流① トラフ (しかけ)

位置 河口から直線

きりで約 14 km

生あり 草(有) 木(有)

ゴケ(有) 二種の

アメンボがいた

川底は石だらけ

川はば

約 250 cm

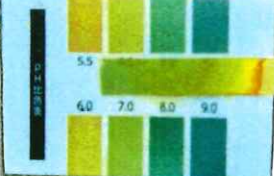
流

ゆる

やか

PH 水質

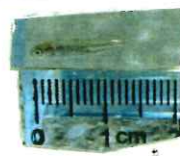
7.0 中性



とれた生きもの

スジエビ 2 cm

ミナミエビ 5 cm 約 5 cm



ちみで
くつて
た魚

立見川 中流(2) ^{トラップ} (1ヶ所)

位置 河口から

越え奥きりで
余りくま

まわり 草(有) 木(有)
ごが人(有)
つががちにはえ子
も黄色のあわがで
まいてた。

流れ

ゆるがが→はかい

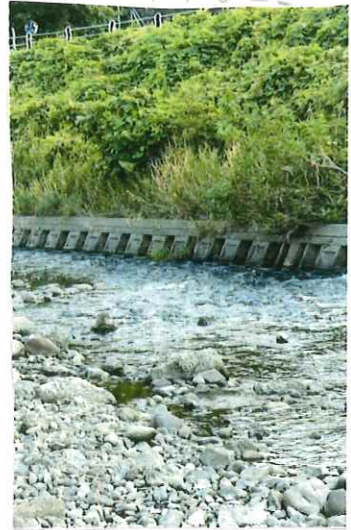
トラップ
しかけるとき



なかに
はやくなて
る?

次の日
→

トラップ
かいてるるとき



とれた生きもの

・手長エビ 2匹 6cm・9cm

魚肉ソーセージを全部食べていた。



とれたものの
まわしなが
あつたの
岸にま
ていた。

6cmの手長エビ↓

↓9cmの手長エビ



手長エビだ
と思つた理由
がなみ前につ
出た目、前から
わきの長いほみ
など、手長エビ
のふくなくと太
くつたため、
「手長エビ」だ
と思つた。

ろしせ川

引地川源流

トランプ (しかけだい)

位置 直ぐ白
きよろで22km

たん水せいの
ニまい貝が
いた



ニまい貝の
死がい(死骸)が落ち
ていた。

まわり 草(有)木(有)
コケのついた石(多)

流水

川底からおく+かるや

川底からおきで
下 えてい
る水
水流で
砂がまき
あげられ
ていた。

PH
7.0中性

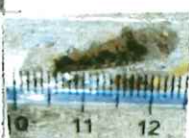


カワニナ →
川底に
数+匹
のカワニナ
がいた。



← 湧水の
近くは
あた石
の

生息している生もの

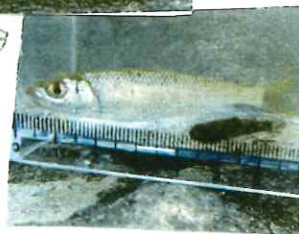


← いぜのなかま

↓ オイカワ(オス)とタゴ



オイカワ(メス) →
いぜのなかま



ろしせ川 豆矢(豆矢)

ろしせ川って、なんで「ろしせ」川か、

知ってますか?

ろしせ川は、もともとえだわがわした川の全体の名前がきまっていま
せんでした。16の村がすみかしてまがった川をますぐにするための工事(いま
らんをよさめる工事)をして土をほりかえ、(昔に引くより)そのことからろしせ川
とよばれるようになったそうです。

引地川 中流 ①

トラップ
(1ヶ所)

位置 河口から

直線より12km

まわり 草(有) 木(無)

ごみ(有)

流水

ゆるやか・はやり

PH・水質

6.5 中性
水質 中性
水質 中性

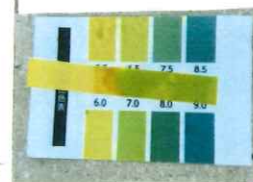
なぜ PH があつたのか?

水質からの雨水で
雨水は中性で
す。16.5から7.0

にかかっている
たんぱく質

ます
(水質は
次のページに
写真があります)

工事現場があった



出会い度
☆☆☆

きゅうりに似た香りのする香魚

アユ [鮎]

きゅうりに似た独特の香りがします。川の下流で生まれた稚魚は海に下って冬を越し、春になると川をのぼり、川底の石についた藻を食べて成長します。夏に解禁される「友釣り」(P.161)は、えさ場をめぐり、アユがなわばりをつくる習性を利用した独特の釣り方です。初夏を代表する魚で、塩焼きや天ぷらなどで食べられて下流へ下り、浅瀬で産卵すると1年の寿命を終えます。

わくわくMEMO

アユによく似た「アユモドキ」

アユによく似たアユモドキは、アユの仲間ではなく、コイ目ドジョウ科でドジョウの仲間です。口には6本のひげがあり、日本固有の魚で、琵琶湖や淀川などにすんでいます。



じつは琵琶湖産の「アユ」

とれた生き物

トラップをしかけましたが、生き物がつかれません。そこで、せめてみで魚をつかまえて、おじいさんに、どんな魚がつかぎ取ったところ、アユ・ヤマメがいることをおいてもらいました。また、コイモはしの上から見え玉した。(写真の○がコイです)



分科 サケ目サケ科
大きさ 20cm
分布 北海道・関東・日本海など
釣れる時期 春・秋
分科 ニシン目アユ科
大きさ 15~25cm
分布 日本各地・朝鮮半島など
釣れる時期 夏・初秋



川魚で1、2を争うおいしさ

出会い度
☆☆☆

ヤマメ [山女魚]

わくわくMEMO

海に下るとサクラマスに

ヤマメが海に下るとサクラマスとよばれるようになります。70cm程度まで成長します。北海道に生息するヤマメの多くは海に下りますが、他の地域のヤマメは川に残ることが多いです。

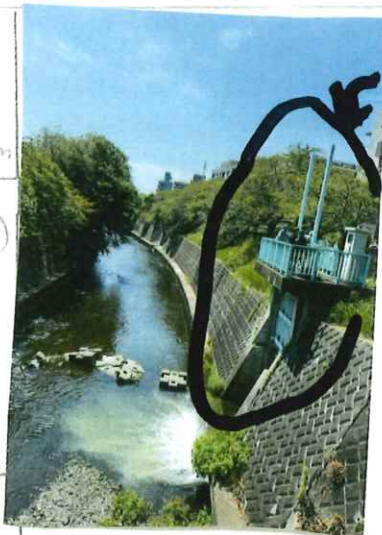


産卵のための川をのぼるサクラマス

ていますが、体に淡いコバルトブルーの模様だけがあるのが特徴です。主に甲殻類や昆虫、小さな魚などを食べていて、とてもしゅん敏で釣るのが難しい魚とされています。産卵で死んでしまうのが一般的ですが、ヤマメは産卵をしたあとも生き残るものがあります。くせのない味で、川魚のなかでもとくにおいしい魚といわれています。

引地川 中流(2) ^{トラップ} (ヒカリ)

位置 河口から
直線距離で約1km
主成分 草(有) 木(有)
石(有) ゴキウ(有)
水門がまた



水門 →
下の写真
の上に
の引
地川



流水

↓引地川中流の近く

ゆるやか

PH・水質

上のページ

1ページにまた
は入っていた



このは「よてフナガたく」の人
は、い人さあていませ！！

みんなからのアンケート結果

(「その他」はザリガニ・ヌマエビ・メダカ・フナ以外の生き物です)
 三見川の生き物(数字は見た人の人数です)

	ザリガニ	ヌマエビ	メダカ	フナ	その他
上流	1	0	1	1	18
中流	2	2	2	3	19
合計	3	2	3	4	37

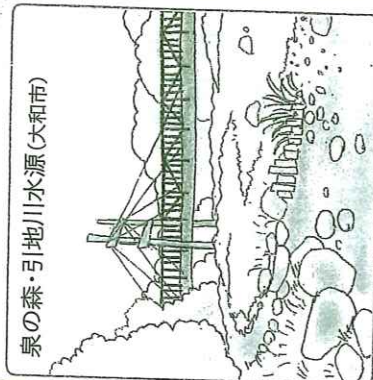
三見川上の生き物

	ザリガニ	ヌマエビ	メダカ	フナ	その他
上流	2	0	0	1	21
中流	4	1	0	3	21
合計	6	1	0	4	42

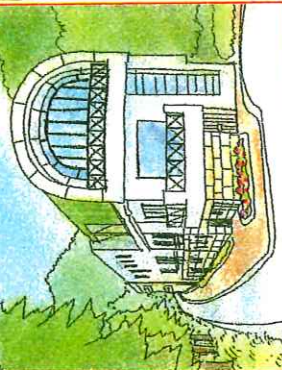
一河川流域イラストマップ

【編集発行】 2013年6月現在
堀川1号地川水系水質浄化等促進協議会
協力 神奈川県 環境部・国土交通政策課
横浜市 環境局・港湾局 水産部・建設局
相模湾市 環境経済部 環境保全体
大和市 環境局・都市生活部環境安全課
鎌倉市 環境局・衛生部環境安全課
藤沢市 環境経済部 環境政策課
横須賀市 環境局 環境安全課
横浜国立大学 環境学系
NPO法人 神奈川県ウォーターネットワーク
イラスト 新川啓吉

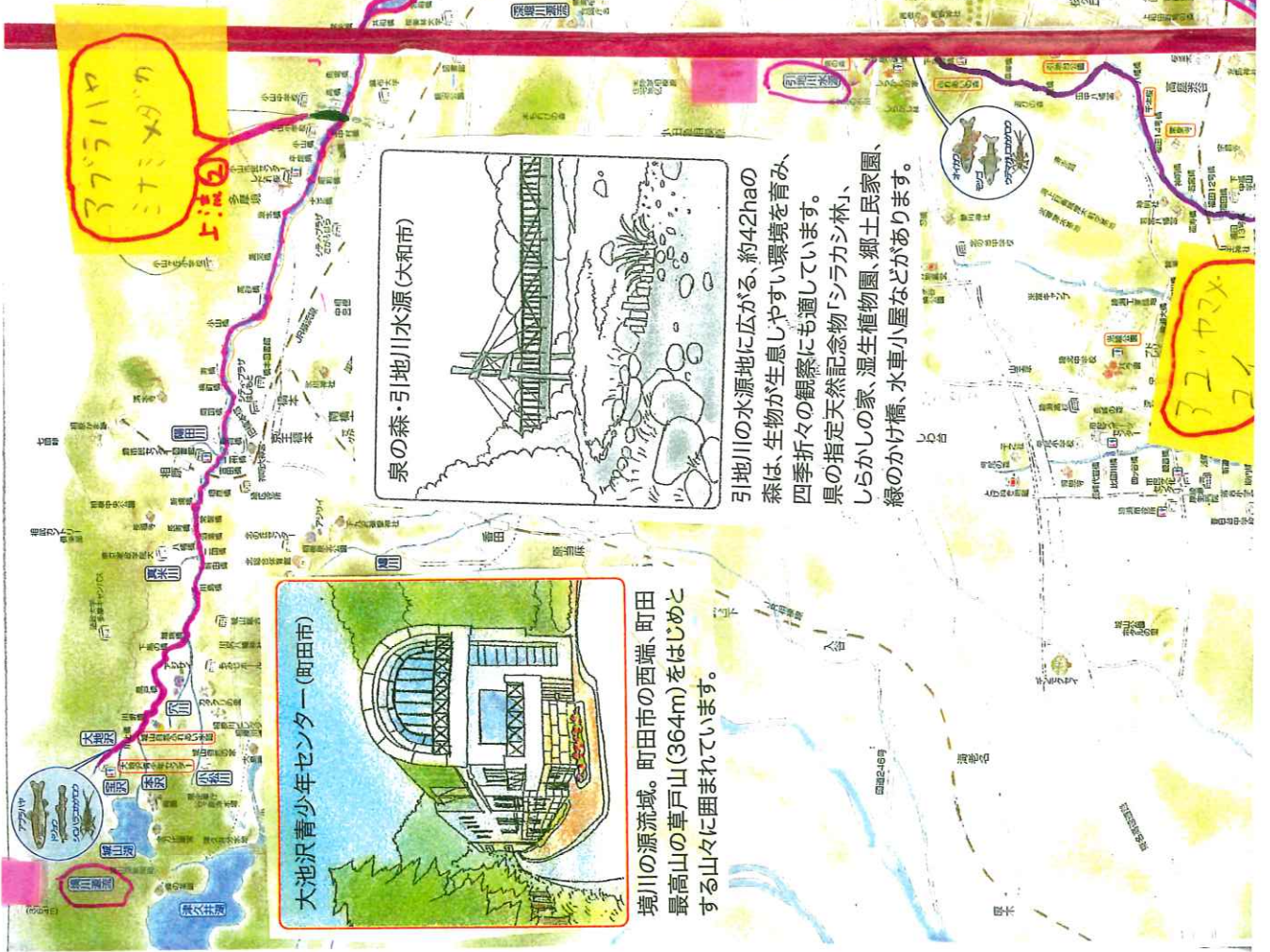
トランプ・シカゴ量戸斤

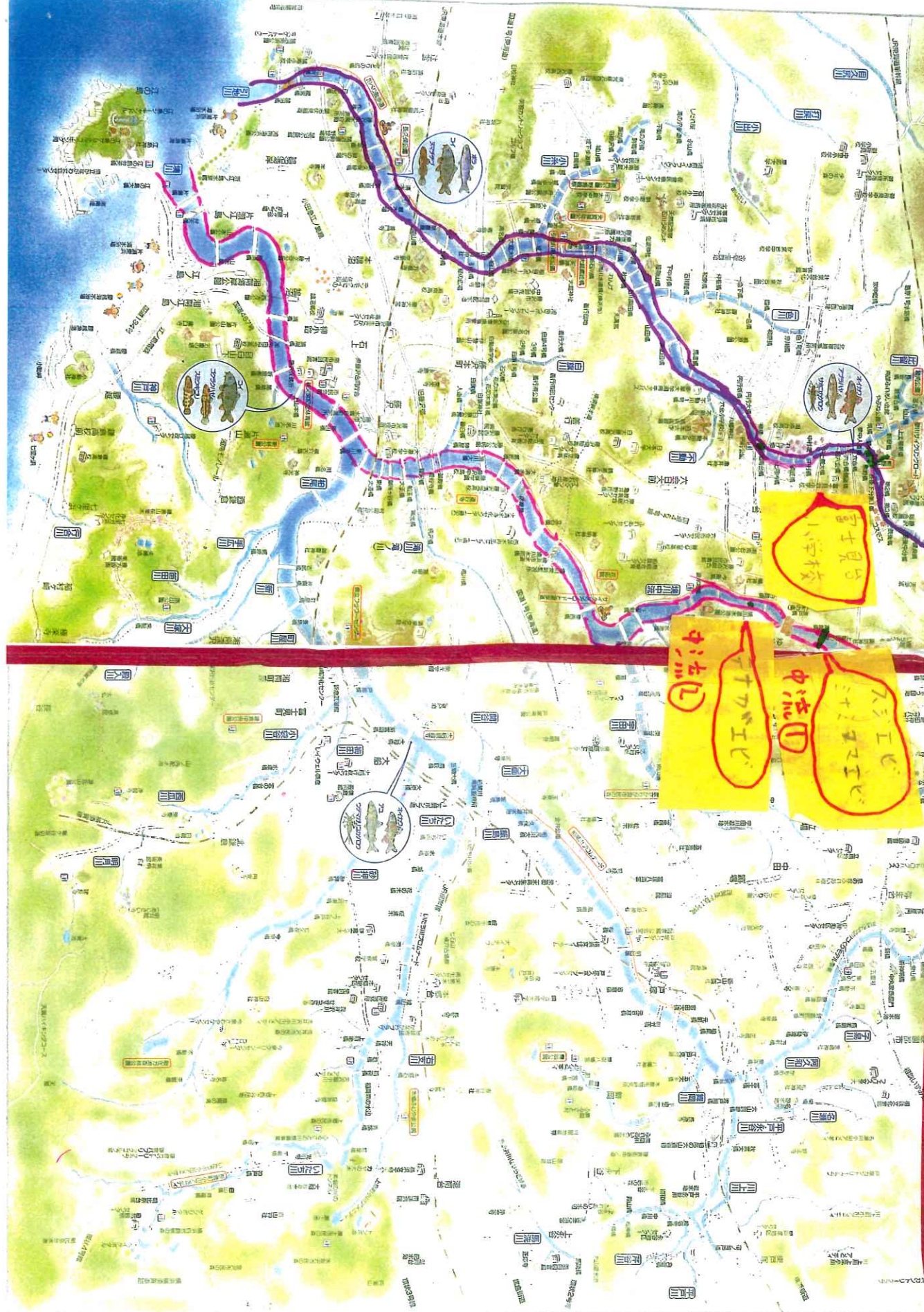


引地川の水源地に広がる、約42haの森は、生物が生きやすい環境を育み、四季折々の観察にも適しています。



境川の源流域。町田市の西端、町田
最高山の草戸山(364m)をはじめと
する山々に囲まれています。





トラップの作り方

① ペットボトルを……で切る



② 切ったペットボトルを反対にする



③ キャンプカがついているペットボトルを下におしこむ
(かならず)



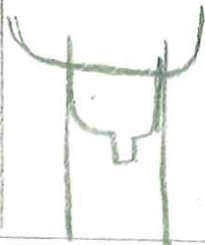
④ ドライバーで穴をあける
(かきながら)



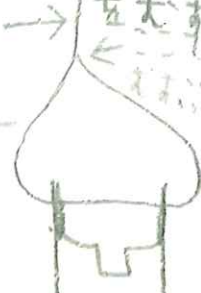
⑤ 反対側がねも④でかきながらにする



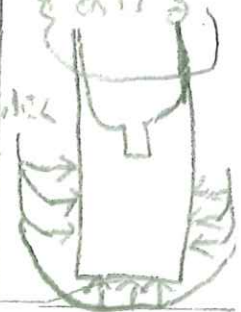
⑥ ④⑤であけた穴にひもをはさ



⑦ ⑥でしたひもを太く長く



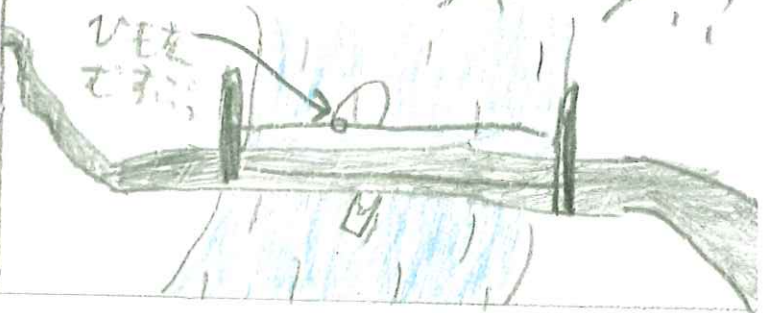
⑧ 水の出る穴をあける



⑨ ⑦のキャンプカの部分からえさをいれる
(少ないほうがいいが水をよこさない)



⑩ ⑨をはしからバシャーッ!!



かんせい!!!

まとめ

前回の結果では、土境川の方が流水があまりなく、
がく木と場戸斤があり、生き物が多くて生活しやすいと
考えていました。

しかし今回の研究結果で案外いい発見があ
りました。

まず土境川は全体的に流水がゆるやかで川底
は石が多く、まわりは草木が多くありました。
また生き物はエビ類が多く、上流の方が
魚が多く見られました。日本産淡水魚はPH
6.5〜7.5(その真ん中の7.0が良い)なのに対し、
上流は6.5とぎりぎりの弱酸性です。このことから
弱酸性に適した生き物が多いのではないかと
予想しました。また、弱酸性なのは関東ローマ

層の中の火山灰(酸性)が川に溶け出していると思います。そのほかにも、土壌川には草食系の生き物が多くいると思いました。その理由としてトラップのパンをよく食べていたことがあります。

ヌマエビ、アブラハヤなどの生き物がパンを食べていたと考えられます。

ラッシュ川では前は流木が速く生き物が少ないという考えでしたが、今回は全体的に流木はゆるやかだが速い場所もあり、流木がある方が良いやマメアユが見られたり、流木が無い方が良いコイ、ダカなベがいました。そして、中流にたくさんいるアユは川底の藻を食べます。これは藻が多いことを意味しています。また、水がきれいな場所にいるアユがいることで水のきれいさも証明できると思います。そのほかにもヤマメはコイ虫や甲殻類、小さな魚を食べます。このことから

たけさんの生き物がいることがわかります。

川中^{はば}富を広げる工事が進んでまえまではこなり、たアユやヤマメ

などの魚がまた中流に来るようになったと投糸周で魚を捕

まえていたおじいさんが言っていました。また近くにはその工事

について

看板がありました。上流では

カワニナやオイカワがいました。とくにカワニナに注目して

みると、カワニナの食性は雑食で、主に藻を食べます。

そして水がきれいな所にしか生息でき無いとされています。

アユ、カワニナのように水がきれいな所にしかいない生き

物がいて、さらにもう一つ水がきれいだと思う理由があります。

昔、引込川の水は飲料水として使われていたそうです。(今は源

流に「この水は飲めません」と書いてあります。)アユ、カワニナ、飲料水

として使われていたなどの三つの理由から引込川の水はきれい

だと思います。また、まわりの様子として引込川は木立

草が多く、PH6.5です。これは土蔵川と同じで関東ローマ

の景観を大切に考えられます。

アラスのみなさんに協力してもらった生き物アンケートの結果でも、引越川の方が全体的に多く生き物が見られていました。

このことをまとめると、今回の研究結果は意外に短いアラスと引越川の方が色々な生き物がいると言う事がわかりました。

アンケートに答えてくれた5年強組のみなさんありがとうございました！